ふるさと東総

平成14年3月1日発行　No.1

皆さんに知ってほしい当組合で取り組む様々な事業

●東総地区広域市町村圏事務組合管理者のあいさつ …… 2
●東総地区広域市町村圏事務組合の概要について …… 3
●広域行政検討事業（ごみ処理広域化事業）について …… 4
●海外派遣研修事業について …… 4

平成13年度海外派遣研修団員

【シンガポールの中学校、Whitley Secondary School 前での撮影】

編集・発行/ 東総地区広域市町村圏事務組合
〒289-2521 旭市ハの612-1 東総振興センター内
電話：0479-62-3305　FAX：0479-62-3302

はじめに －広域行政の必要性について－

近年、交通・情報通信手段の発達や経済活動の進展に伴い、住民の日常的な生活の範囲は、県や市町村の区域を越えて益々拡大しています。このため、現在の市町村の区域にとらわれることなく、広域的な観点から、住民の生活圏の広がりに対応したまちづくりを展開することが必要です。　こうした状況を踏まえて、個性的で豊かな地域を創り上げていくためには、多様な広域行政の制度や仕組みの中から、事務事業の性質や地域の実情に応じて最適な組み合わせや制度・仕組みを選択し、積極的に広域行政を推進していく必要があります。

豊かな自然、地理的条件、産業基盤等の東総地域の発展ポテンシャルを最大限に生かし、構成市町がお互いに協力し合いながら地域の一体的発展を遂げると共に、またそれぞれが個性と創造性を発揮して、住民との協働のもと、より魅力的な圏域づくりを推進していきたいと考えています。

東総地区広域市町村圏事務組合管理者　伊藤　忠良

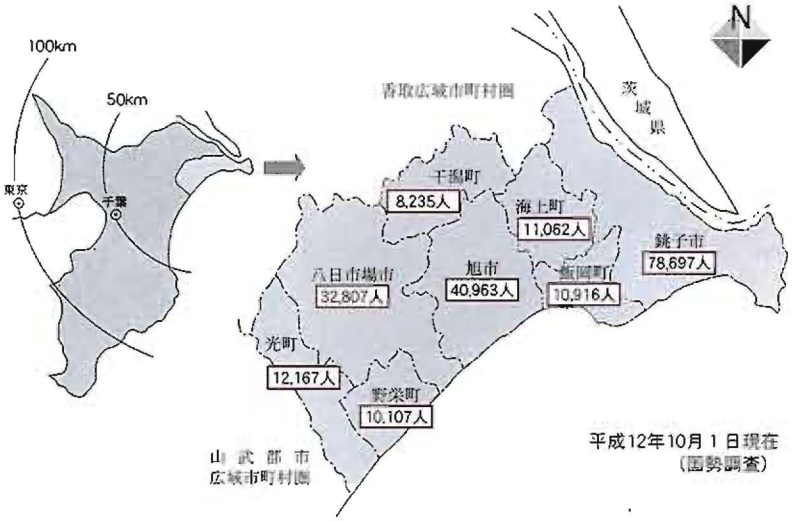
東総地区広域市町村圏事務組合の概要

当組合は、昭和46年に**銚子市、旭市八日市場市、飯岡町、海上町、光町野栄町、干潟町**の３市５町が広域市町村圏の指定を受け設立されました。

現在、平成13年度にスタートした第３次広域市町村圏計画に基づき、

「人と自然が調和し豊かさを実感できる“ふるさと東総”」

を目指し、ソフト面を中心とした地域振興事業を行っています。



◎東総地区広域市町村圏事務組合　案内図

◎組合機構図

- 管理者
  - 副管理者
    - 収入役
  - 事務局長
    - 総務課長
      - 庶務係（２人）
      - 企画係（２人）
    - 計画策定委員会（11人）
- 組合議員（24人）
- 監査委員（３人）

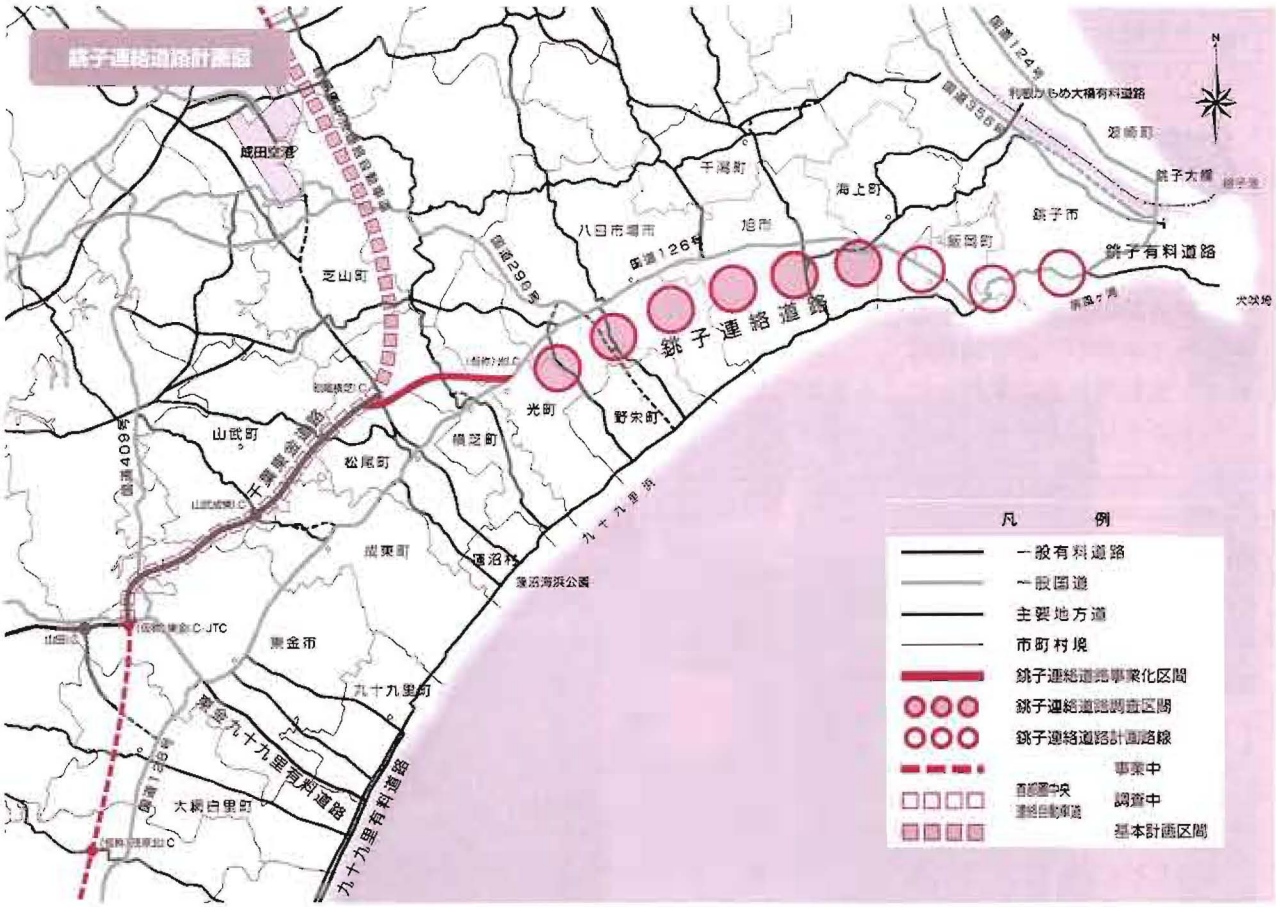
交通のご案内

＊JR旭駅より徒歩約17分。

＊国道126号線旭市袋交差点から1.5km南（海岸）へ。

東総地区広域市町村圏事務組合の仕事

事業名	事業目的
広域行政検討事業	広域行政体制の簡素合理化と、住民の生活圏の広域化に対応した地域住民の利便性向上を念頭においた効率的、効果的な広域行政の検討・推進を図ります。 【核となる事務事業】 ◇ごみ・し尿処理業務 ◇消防・救急業務 ◇人事交流 など
広域道路ネットワーク確立のための道路網整備計画の策定	県内どこからでも県都千葉市へ１時間で行ける「県都１時間構想」の実現と、各地域とのアクセス性の向上など、将来の東総地域の根幹となります。



海外派遣研修事業	圏域内の中学生を海外に派遣し、諸外国の自然、歴史等を学ぶとともに、現地の中学生との交流を深め、国際理解教育の推進を図ります。
職員採用試験事業	構成市町・一部事務組合の職員採用試験を合同で実施し、経費の節減及び市町職員の資質の向上を図ります。
職員共同研修事業	構成市町職員の職務遂行に必要な知識及び技能を効率的、効果的に習得させ、職務を適切に遂行する能力を養います。
東総地域広域観光・リゾート研究事業	地域の資源（自然、食など）を調査・研究し、観光・リゾートを切り口に経済の活性化、地域の活力ある発展を図ります。

広域行政検討事業

ごみ処理広域化事業

大量生産・大量消費社会から循環型社会へ

今、ごみ処理は「燃やして埋める」から「分けて使う」に変わりつつあります。徹底した減量・分別で再利用、再資源化を図り、その後「燃やせるごみを燃やし」その灰まで再利用する方向に向かっています。

ごみ処理を広域化すると

■環境負荷の低減　■ごみ処理経費の軽減
■排熱エネルギーの有効利用
■その他処理施設の集約化による効率的な再資源化
などのメリットがあります。

環境負荷低減のために

一方、ごみの焼却によるダイオキシン類などの排出量を減らし、その熱エネルギーを有効活用するためには、大型焼却炉での24時間運転を図る必要があり、広域的取り組みがますます重要となります。

そこで千葉県は、平成10年に県内を22ブロックに分けた「千葉県ごみ処理広域化計画」を策定しました。東総地域もそのひとつとして、銚子市、東総塵芥処理組合、八日市場市ほか三町環境衛生組合の３施設を統合した新しいごみ処理施設計画の検討を始めています。

海外派遣研修事業

【事業のあり方として】

新しい地域の創造には、国際化、グローバル化に対応する人材の育成が重要です。

そのためにはひとりでも多くの中学生が、外国の自然、産業、文化、歴史等を学ぶとともに、現地の中学生との交流などを通して異文化に触れることで、世界を、日本を、地域を理解し、認識することが不可欠であると考えています。

【事業内容】

① 期　日　夏休み期間を利用し、３泊５日程度
② 訪問国　シンガポール・マレーシア
③ 団員数、団員構成
　団長１名・指導団員３名・事務局２名
　中学２年生34名（東総地域内17中学校より男女各１名）
④ 研　修
　事前研修会、事後研修会
　本研修（シンガポールの中学生との交流を中心に研修を行う。）

交歓会の様子

ウィットリー中学校生徒による中国、インドなどの民族舞踊で私たちを歓迎してくれました。

研修団員は、少し緊張気味でしたがウィットリーの生徒たちの手拍子が大きな励みとなり、「明日があるさ」などを楽しく歌うことができました。

英会話は難しいけれども、身振り手振りを交えて何とか心の交流ができました。

再生紙使用